

もも管理特報 No.4

令和2年5月12日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
新川農林振興センター

○5月中旬～6月中旬 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施時期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
薬剤散布	<ul style="list-style-type: none">散布ムラが生じないように丁寧に散布する散布間隔が10日以上あかないように注意する散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施する	2. 病害虫防除 (1) 薬剤防除参照		
罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none">せん孔細菌の春型枝病斑は、5月下旬頃まで複数回、症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する灰星病の花腐れ症状の発生している枝を除去する	随時		
予備摘果	<ul style="list-style-type: none">主枝、亜主枝先端や伸ばしたい枝は全て摘果する最終着果量の2～3倍の量の果実を残す田植え作業と競合するので、作業時期に留意し、作業人数を確保する	結実が確認でき次第～5/12頃 (満開後30日頃)		
仕上げ摘果	<ul style="list-style-type: none">最終着果量の1.1～1.2倍量を目安に果実を残す大豆の播種作業等と競合しやすいので、作業時期に留意し、作業人数を確保する <p>※必ず栽培担当者が着果量を確認する</p>	◆「あかつき」 予備摘果終了後～6/4頃(硬核期前)		
袋掛け	<ul style="list-style-type: none">せん孔細菌病の発生が多い樹は、早めに袋掛けを完了する	仕上げ摘果終了後～6/20頃まで		
新梢管理	<ul style="list-style-type: none">発生位置に応じた管理をする(切除、摘心、捻枝)強樹勢の樹体や幼木は、作業が遅れないよう注意する亜主枝候補枝は誘引し、主枝との角度、勢力差を保つ	仕上げ摘果と同時期(硬核期前)		
土壌水分管理	<ul style="list-style-type: none">乾燥、少雨が1週間以上続く場合は、かん水を実施する特に苗木はこまめにかん水を実施する多雨となった場合は、明きよの設置により園地内に雨水が停滞しないよう排水対策に努める	必要時		

1. 生育状況・病害虫の発生状況

- 結実は、いずれの品種も良好。
- 果実肥大は、開花期間が長引いたため、ばらついている。
- せん孔細菌病は、一部園地で枝の紫黒変、芽枯れ、花腐れ等の症状が目立つ。

<参考>4月のせん孔細菌病の葉への感染好適日数：2日間(前年1日間)

※感染好適日は、日降水量2mm以上、日最大風速10m/s以上を記録した日(アメダス朝日)

2. 病虫害防除

(1) 薬剤防除

下記を目安に防除を行う。

<結実樹対象>

回数	散布時期の目安	対象病虫害	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
7	5月20日 ~22日	黒星病、灰星病 モモハモグリガ アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	ベルコート水和剤 サイアノックス水和剤 (展着剤 マイリノー)	2,000倍 1,000倍 20,000倍	50g 100g 5cc	400	
8 ※	5月30日 ~6月1日	黒星病、灰星病、 せん孔細菌病	トレノックスフロアブル (展着剤 マイリノー)	500倍 20,000倍	200cc 5cc	400	
9	6月9日 ~11日	黒星病、灰星病、 せん孔細菌病 シンクイムシ類、ウ メシロカイガラム シ、ハマキムシ類	トレノックスフロアブル ダースバンDF (展着剤 マイリノー)	500倍 3,000倍 20,000倍	200cc 33g 5cc	400	

※ 前年、カイガラムシ類の多発した園では、スプラサイド水和剤（1,500倍、収穫21日前まで、2回以内）を加用する。

<結実樹対象：せん孔細菌病多発園>

- ・防除の実施時期が早まっている園地では、マイコシールド（2,000倍、収穫21日前まで、5回以内）を7回目防除から10日以内に単用で特別散布する。
- ・袋掛けを早めに実施し、袋掛け終了後、速やかにICボルドー412（50倍）にクレフノン（100倍）を加用し特別散布する。

※薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。

回数	散布時期の目安	対象病虫害	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
7	5月20日 ~22日	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類	ベルコート水和剤 バリダシン液剤5 サイアノックス水和剤 (展着剤 マイリノー)	2,000倍 500倍 1,000倍 20,000倍	50g 200cc 100g 5cc	400	
8 ※	5月30日 ~6月1日	黒星病、灰星病、 せん孔細菌病	トレノックスフロアブル (展着剤 マイリノー)	500倍 20,000倍	200cc 5cc	400	
9	6月9日 ~11日	黒星病、灰星病、 せん孔細菌病 シンクイムシ類、ウ メシロカイガラム シ、ハマキムシ類	トレノックスフロアブル ダースバンDF (展着剤 マイリノー)	500倍 3,000倍 20,000倍	200cc 33g 5cc	400	

※ 前年、カイガラムシ類の多発した園では、スプラサイド水和剤（1,500倍、収穫21日前まで、2回以内）を加用する。

<未結実樹対象>

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (%/10a)	防除実施日 (自己記入)
5 ※	5月14日 ~12日頃	黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類	トレノックスフロアブル	500倍	200cc	100~ 200	
			アドマイヤー水和剤 (展着剤 マイリノー)	2,000倍 20,000倍	50g 5cc		
6	5月28日 ~30日頃	黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類、 ウメシロカイガラ ムシ、ハマキムシ類	トレノックスフロアブル	500倍	200cc	100~ 200	
			ダースバンドF (展着剤 マイリノー)	3,000倍 20,000倍	33g 5cc		

※ せん孔細菌病の多発園では、バリダシン液剤5（500倍、収穫7日前まで、4回以内）を加用する。

- 農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！
- 園の近くに民家がある場合等は、散布日時を連絡するなどの配慮にも努めてください。

(2) 耕種的防除

- ・ せん孔細菌病による芽の枯れ込み、葉芽の奇形、不発芽、枝が黒~褐色に変色等の「春型枝病斑」がある枝は、見つけ次第切除し、園地外で処分する。
- ・ 作業は、見残しが無いよう、5月下旬頃まで複数回にわたって実施する。
- ・ 灰星病の「花腐れ症状」の発生している枝の除去を徹底する。



せん孔細菌病の「春型枝病斑」



灰星病の「花腐れ症状」

3. 着果管理(予備摘果・仕上げ摘果)

(1) 本年の注意点

- ・ 本年は、4月の気温が低かったため、いずれの品種も満開後20日（4月末）時点では結実を判断できず、予備摘果を実施できる状態になっていなかった。
- ・ このため、強摘蕾を行っていない樹（受粉の必要な品種、若木、樹勢の強い樹等）は、自園の結実状況をよく確認し、結実を確認でき次第、早急に予備摘果を実施する。
- ・ その際、収穫期の早い品種や樹勢の弱い樹から開始する。
- ・ 仕上げ摘果は、予備摘果が終了次第開始し、6月4日頃（硬核期前）までを目安に終了する。

(2) 着果量の目安

結果枝		着果量	
種類	長さ	予備摘果後	仕上げ摘果後
短果枝	5～10cm	1本に1果	3～4本に1果
中果枝	10～30cm	1本に1～2果	1～2本に1果
長果枝	30～50cm	1本に3～4果	1本に2～3果
極長果枝	50cm以上	1本に6～7果	1本に4～5果

※若木は、樹勢が強く生理落果しやすいので、仕上げ摘果後の着果量を1～2割多くする。

4. 袋掛け

(1) 目的

- ・ 果面の肌荒れ防止、裂果防止、病虫害被害果の発生軽減、着色促進。

(2) 実施時期

- ・ 仕上げ摘果終了後～6月20日頃まで

※せん孔細菌病の発生が多い樹は、早め（梅雨入り前まで；平年6月12日頃）に袋掛けを完了する。

5. 新梢管理(成木)

(1) 目的

- ・ 夏季の受光態勢の向上、樹体の日焼け防止、翌年の結果枝の確保。

(2) 実施時期

- ・ 5～6月。

※硬核期間中（満開55～75日後頃）は、生理落果や核割れ防止のため控える。

(3) 芽かき

- ・ 主幹、主枝、亜主枝等の背面の強勢な新梢は早めにかきとる。

(4) 摘心(写真1)

- ・ 主枝や亜主枝の背面や基部付近で、日焼け防止が必要な場所から発生した新梢は、葉を5～6枚残して摘心する。
- ・ 徒長枝等は、長めの副梢を2～3本残して摘心し、翌年の結果枝として利用する。

(5) 稔枝(写真2)

- ・ 勢力の強い新梢を重点に、新梢の長さが30cm以上となったものから順次行う。

